



「それしか ないわけ ないでしょう」

～こんな時だからこそ、多様で柔軟な発想を～

校長 松崎 由里子

あけましておめでとうございます。2022（令和4）年が始まりました。今年も、どうぞよろしく願いいたします。

さて、12月の人権週間の取組の一環として、全学級で、ヨシタケシンスケ作「それしかないわけ ないでしょう」の絵本を読みました。おにいちゃんの「たべものがなくなったり、びょうきがはやったり、せんそうがおきたり、ちきゅうがこわれたり、みらいのせかいはたいへんなことばかり」という言葉に不安になった女の子がおばあちゃんに相談します。「だいじょうぶよ！」とおばあちゃん。「おとなは よく『コレとコレ どっちにする？』とかいうけれど、どっちも なんか ちがうな—って おもったときは、あたらしいものを じぶんで みつけちゃえばいいのよ！」この言葉に納得した女の子は、「たいへんな みらいしかないわけないでしょう。いろんなみらいがあるでしょう。」と、お兄ちゃんに反論し、たくさんの素敵な未来を想像するという楽しい絵本です。この絵本を受け、一人ひとりが『『それしかないわけない』から、『○○でもいいじゃない』』ということを考えました。「『できること』しかないわけないでしょう→『チャレンジ』してもいいじゃない」「『黒板は緑』しかないわけないでしょう→『いろんな色があっても』いいじゃない」…。様々な発想で、楽しい考えがたくさん生まれました。

10月1日まで分散登校が延び、もともと11月に予定されていた4年の宿泊体験学習に加え、5年の宿泊体験学習、6年の修学旅行がそれぞれ11月に延期となったため、やむを得ず12月に実施した運動会。10月後半から11月に、学年ごとに開催するという案も出ましたが、上級生の競技や演技を目の当たりにして憧れをもったり、下級生の競技や演技の真剣さに自分の成長を実感したりすることが、子どもの未来への希望、成長につながるのではと考え、全校一斉実施に踏み切りました。横浜市立学校の教育活動のガイドラインのもと、応援団は、帽子を振ったり、手拍子足拍子をしたりと、工夫して一体感を演出しました。まさに『『大声で応援する』しかないわけないでしょう→『体を使って応援』してもいいじゃない』…。最後まであきらめず、仲間を応援する子どもたちの姿に、胸が熱くなりました。PTA本部役員の方を中心に、運動会の実現に向け、たくさんの保護者の方に支えていただきました。ありがとうございました。



コロナ禍のこんな時だからこそ、何を大切にするのかを見極め、多様で柔軟な発想で、子どもとともに乗り越えていきたいと考えています。